校長研修だより６

# 「主体的」とは

2021・5・7　重枝 一郎

新学習指導要領では，教える内容のマイナーチェンジではなく，教え方のモデルチェンジを求めている。アクティブ･ラーニングという言葉が使われなくなったのは，「活動的な授業」ととらえ，表面的なグループ活動に終始し，思考が深まらない授業が散見されたためだと言われている。

そこで，言葉を「主体的・対話的で深い学び」と置き換えることになった。主体的とは，意欲・興味があると，脳内からドーパミンが放出され，学習が心地よく感じ，また，記憶の保持を強化すると言われる。

**「主体的」**という言葉を定義するなら，**「学びの主体として，学習の対象となる物事に関わっていくこと」**になる。また，「対話的」については，学びにおける「問い」が「対話的」につながっていくことになる。この「問い」の定義は「対象に働きかけフィードバック情報を得る営み」と言える。これは対象との対話になり，「問い」の往還によって自分と対象の間に新しい関係が生まれ，自分の成長につながっていく。これが「主体的・対話的」の本質であり，『良質な「問い」は良質な思考を生み出す』ことになる。

例えば本を読む場合，単に文字を追いながら内容理解につとめるよりも，「問い」を立てながら読み進めた方が内容に深く関わることができる。例をあげると・・・

普通の問い方「相手を説得するときＡとＢの故事成語のうちどちらを用いた方が効果的だと思いますか？」

アレンジした問い方「あなたが提案を受けるときＡとＢの故事成語のうちどちらを言われた方がうれしいですか？」

このように自我関与が高まるような「問い」を作り出すことが「主体的･対話的」の本質に近づくように思う。

「主体的」とよく似た言葉で「自主的」がある。「自主的」は，「他からの保護・干渉を受けず，独立して物事を行うこと」という意味である。これは，「誰かに言われる前に，自分から進んでやる」「人の助けを借りずに解決する」というように，決まった枠の中で行うような学びであり，主体的とは少し違う。

「主体的」とは，「自分の考え・立場をはっきりもって行動しようとする性質」「自らの意志や判断で学ぶ」「他に対して働きかける」ということで「自習時間にまじめに黙ってドリルを解く」のは「自主的」であって「主体的」とは違う。自主性との違いは，「自分の考えや立場をはっきりもっている」ことと，**「他に対して意志・行動を働きかける」**という意味も含まれると考えられる。

（次号は「対話的とは」）